

1 小単元名 「地震からくらしを守る」

2 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、大単元「くらしを守る」を構成する3つの小単元のうちのひとつで、学習指導要領では、第3学年及び第4学年の内容に示された

- (4) 地域社会における災害及び事故の防止については、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする、
- ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。
 - イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

に基づいて設定されたものである。ア「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」と、イ「関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること」の学習を通して、地域社会における防災にかかわる諸活動について、関係諸機関や地域の人々が災害時に被害を減らせるように工夫や努力をしていることや、緊急時に相互に連絡を取り合って、協力していることを考えさせることがねらいである。

(2) 教材について

本小単元では、「地震が起きたときに市や地域ではどのような取組をしているのか」、「地震からくらしを守るために私たちは何ができるのか」について具体的に考え、理解することをねらいとしている。

地震は、いつ、どこで起こるか分からないものである。私たちが暮らす地域でも、地震はいつでも起こりうるものだと考えているため、普段の生活の中で多くの人々が地震対策の仕組みを作り、協力体制を構築している。しかし、児童にとって地震対策は決して身近なものではない。「地震は怖い」という気持ちは持っているが、地震が起きるとどのような危険があり、どのように暮らしが脅かされるかまでは考えることはできていない。そのため、身近な地震への備えに対してもあまり意識を向けられていないことが多い。

そこで、まず地震で生じる大きな被害やそれに伴う生活の不便さを写真から感じ、児童の暮らす地域で地震が起きたときのことを具体的に想像できる工夫をして学習に入るようにする。そうすることで、児童は、地震が起きたときにどのような被害を受け、何に困るのかをはっきりと意識することができる。そこから安全なくらしを送るために児童自身がどのようなことを望むのか、それに応じるために何が組織されているとよいのかを、自分ごととして考える。そして、それらの望みに応えるために、家庭や地域の取組だけでなく、市や区が地域と協力して活動していることを調べ、地震に対して様々な立場の人たちによる組織的な活動が必要であること、そして、そのような組織

的な活動が最終的に市民（私たち）にかえってくるということを学習し、社会の一員としての役割を考えるきっかけとしたい。

また、日頃の備えや家庭でもできる防災の取組などを調べていく中で、児童自身も防災のために行えることがあることに気付かせていきたい。地域における防災の取組の学習を基に、地震への備えと自分たちの生活のかかわりを考え、地域社会の一員として、自分たちの暮らしを守っていこうという気持ちを育てるのに適した教材だと考える。

(3) 小単元で育てたい力（人や社会にかかわる力）

指導にあたっては、防災備蓄品や地域の避難訓練について調べたり、地域で地震に備える活動をしている人々の思いについて聞き取り調査を行ったりすることによって、地震から地域を守ろうとしている人々の存在を知り、どのような思いを持って活動しているのか理解させたい。そして、それらの学習を進める中で、地域だけでなく千葉市の取組にも目を向けさせ、暮らしを守るために様々な活動をしていることや関係諸機関と連携をする体制があることなど、多くの人たちの工夫と努力によって自分たちの住む地域の安全な暮らしが守られていることを理解させたい。また、防災にかかわる方に直接話を聞く機会を設けることで、児童が防災のために自ら何ができるかを考えようとする意識を育てていきたいと考えている。

3 児童の実態（男子 17 名 女子 12 名 計 29 名）

(1)最近起きた地震で知っているものはありますか。また、どのような被害があったと思いますか。

知っている地震
東日本大震災… 1 4 熊本地震… 1 3 関東大震災… 3 阪神淡路大震災… 2
わからない… 7
被害
家や熊本城が壊れた… 1 1（熊本地震） 津波で大きな被害が出た… 6（東日本大震災）
建物が壊れた… 3 人が多く亡くなった… 2 千葉も大きく揺れた（東日本大震災）… 1
津波が起きた（熊本地震）… 1 地割れが起きた… 1 山が崩れた… 1
わからない… 8

(2)千葉県で地震の被害にあったことがある地域を知っていますか。

知っている地域
東日本大震災でどこかが揺れた… 1 0 関東大震災でどこかが揺れた… 3
熊本地震でどこかが揺れた… 1 わからない… 1 5
被害
棚が倒れた… 2 津波で家が流された… 2 成田市・千葉市に津波がきた… 1
わからない… 2 1

(3)地震が起きた時に、どこに避難すればよいと思いますか。また、何をしますか。

<p>学校にいる時</p> <p>校庭…1 4 外に出る…5 体育館…5 放送や先生の指示に従う…1 屋上…1 家…1 わからない…2</p>
<p>家にいる時</p> <p>外に出る…6 学校…4 体育館…2 公民館…2 家の中の高い所…2 近所の公園…1 避難場所（花園小・中）…1 近所の高い所…1 安全な場所…1 家の敷地…1 家から出ない…1 わからない…8</p>
<p>何をするか</p> <p>危険なものがないところへ行く…1 1 机の下に隠れる…1 1 外へ逃げる…4 避難場所に避難する…2 こども110番の家に行く…1 放送に従う…1 非常食を食べて状況を探る…1 高い所へ向かう…1 揺れがおさまった後、どうすればよいかわからない…9</p>

(4)地震が起きた時に避難する場所を家族と話し合っていますか。

<p>話している…4 話していない…2 4</p>
<p>場所</p> <p>花園小学校…4 公民館…1 近所の高い所…1</p>

(5)地域や学校では地震に対してどのような備えをしていると思いますか。

<p>地域</p> <p>非常食を備えている…4 避難するための備えがある…1 住む場所を変える準備…1 何か物を備えている…1 耐震強化…1 ハザードマップ…1 放送…1 標識…1 わからない…1 7</p>
<p>学校</p> <p>非常食を備えている…8 避難訓練をしている…5 避難経路が決めてある…1 耐震強化…1 非常用のトイレがある…1 受水槽がある…1 わからない…1 2</p>

(6)家では地震に対してどのような備えをしていると思いますか。

<p>非常食…1 1（一緒に着替えを入れている…2、一緒に懐中電灯がある…2 を含む） 家具の固定…1 ヘルメット…1 わからない…1 6</p>

(7)地震から私たちを守ってくれる活動をしている人はいると思いますか。いるとしたら、どのような人だと思いますか。

<p>いる…2 6 いない…2</p>
<p>どのような人か</p> <p>地域の人…3 消防士・救急隊員…3 優しい人・勇敢な人…3 市や国の職員…2 両親やセーフティウォッチャー…1 地震を予測する人…1 ボランティア…1</p>

質問1から、本学級の児童の多くがどのような地震が今までに起きたのか知っていることがわかる。しかし、一方で7名の児童が最近の地震についての知識がない。また、質問2を見ると、千葉県内での地震の被害についての知識は、ほとんど無いということが見て取れる。

質問3を見ると、学校にいる時に地震が起きた場合、19名の児童が外に避難するべきだと答えている。これは、日頃の防災教育や避難訓練を思い出しての回答だと思われる。一方で、家にいる時に地震が起きた場合の避難については、児童によって答えが異なる。一番多かった「外に出る」という意見も約20%の児童しか答えられていない。ここから、家から安全な場所に避難するという意識が薄いことが読み取れる。また、「どうするか」についての回答も、「危険がない所に行く」や「机の下に隠れる」といった防災訓練の時に練習している行動が多く回答される一方、避難後の適切な行動がわからない児童が多いことがわかる。

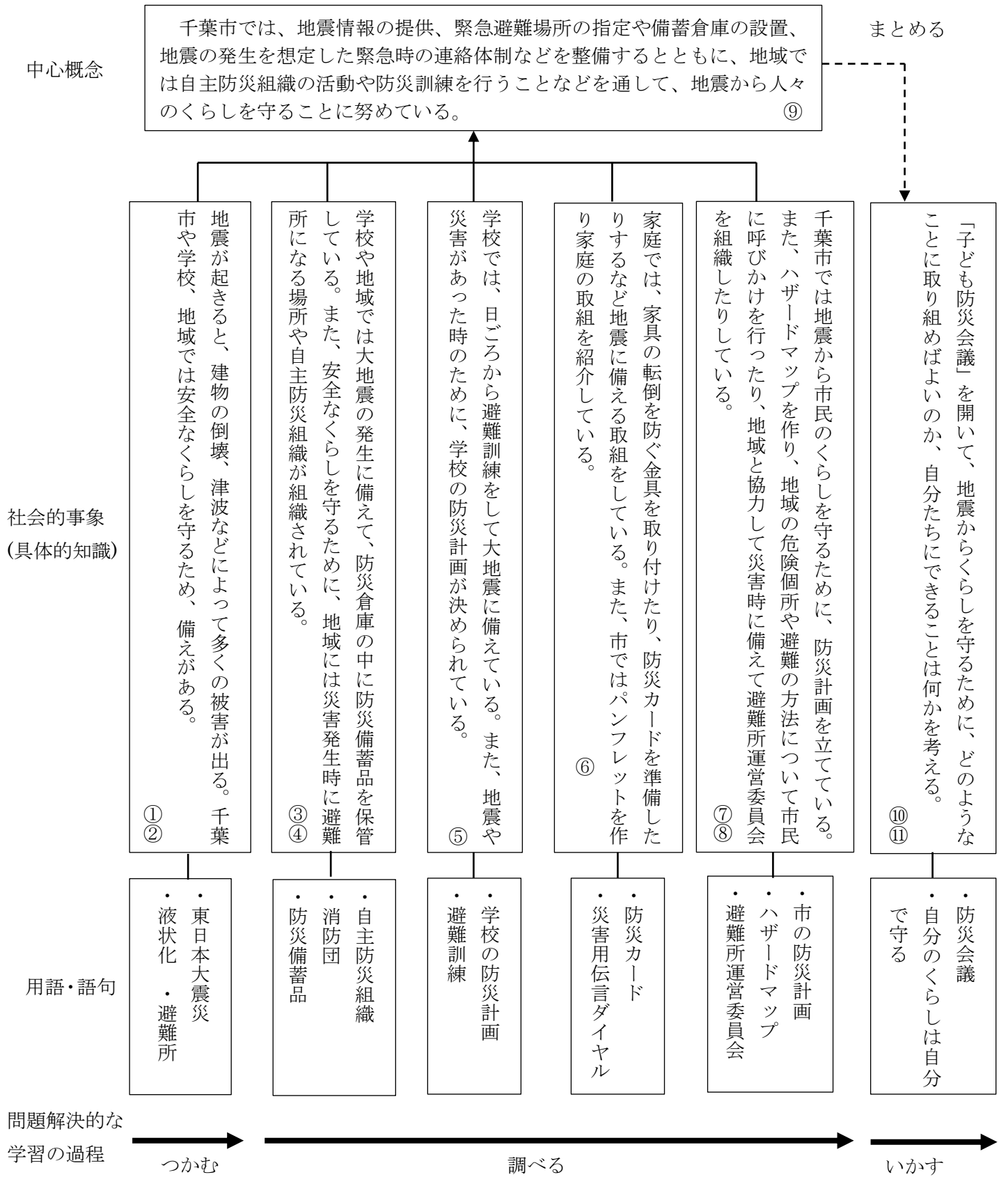
質問4では、避難場所を家庭で話し合えているか質問している。そこから、やはり多くの児童が避難場所を明確にできていないことがわかる。これは質問3の内容にも関連している。

質問5、6では、それぞれの場所で備えているものについての知識を尋ねている。非常食という回答がそれぞれ一番多く、地震の時に食事に困るだろうと想像している児童は少なくない。しかし、一方でどのような備えがあるのかわからないと答えている児童数がそれぞれの質問で最も多く、全体的には地域や家庭の備えについてちゃんと理解できていないことがわかる。

最後に、質問7を見ると、災害時に自分たちを守ってくれている人たちがいることを多くの児童は意識している。しかし、「それは誰か」という質問の回答を見ると、児童によって答えにばらつきがあり、「わからない」と答える児童も多にいる。つまり、自分たちの生活は守られている意識はあるものの、誰がどのように守ってくれているのか、はっきりとは理解できていないようだ。

以上のことから、本学級の児童は地震に対して知識はあるものの、それを自分ごととしてはあまり捉えられていないことがわかる。そのため、自分たちの生活に防災の知識や考えを活かすことができず、実際に地域や家庭での備えについてもあまり理解できていない。また、自分たちの生活が守られている意識はあるものの、誰がどのような活動をしているのか、正確にはわかっていない様子である。そこで、本単元を取り扱うにあたり、まず地震が大変身近な問題であり、いつ自分たちもその被害にあうかわからないということをしっかりと押さえ、地震の問題を自分ごととして捉えられるように工夫したい。そのために、地震によって生じた大きな被害の写真など、具体的な資料を多く使っていきたいと考える。また、地域や家庭での地震への備えを、防災備蓄品や自主防災組織といった児童の身近に備えられているものを詳しく見ていくことで、自分たちの生活が身近な多くの人たちの努力によって守られているということ、花園地区の取組を基に具体的に取り扱っていく。そうすることで、児童にとって今まで少し距離感があった地震への対策や対応について、身近な事象として捉えられると考えている。そして、最後には自分たちも地震に対して備えることができることに気付かせ、社会参画に対して前向きな姿勢を育てたい。

4 知識の構造図



5 小単元の目標

- 千葉市の防災にかかわる諸活動について、防災活動にかかわる地域の諸機関や地域の人々の活動の工夫や努力について理解して、これらの諸活動を意欲的に調べ、地域社会の人々の安全な生活の維持について地域の一員として考えようとしている。
- 千葉市の人々の生活における防災にかかわる諸活動について学習問題を見出し、地域の安全を守るための関係機関やそこで働く人々の工夫や努力について見学、調査したり具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取り、こうした関係機関やそこで働く人々の働きが、地域の人々の安全な生活の維持と向上に役立っていることについて考え、適切に表現する。

6 観点別評価規準

観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○地域社会における地震から人々の安全を守る工夫や努力に関心を持ち、意欲的に調べている。 ○地域社会の一員として人々の安全を守るための活動に協力しようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○地域社会における地震から人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ○安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を地域の人々の生活と関連付けて考え、適切に表現している。
観察・資料活用の 技能	○観点に基づいて見学・聞き取り調査をしたり、資料を活用したりして、地域社会における地震からくらしを守る活動の様子などについて必要な情報を集め、読み取っている。 ○調べたことを表や作品などにまとめている。
社会的事象について の知識・理解	○関係機関は地域の人々と協力して地震からくらしを守る取組に努めていることや、関係機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを理解している。 ○人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。

7 単元の指導計画(11 時間扱い)

次	時配	児童の主な学習活動
つかむ	1	○東日本大震災の時の千葉県や千葉市の被害の様子や多くの人々が困っている様子を写真から見て知る。 ・東北の被災地の様子、千葉県旭市の津波被害、アクアリンク千葉のブロックの崩れた様子など。 ○感じたことをノートに記録する。
	2	○大きな地震の被害の様子から、自分たちの住む地域で大きな地震が起きたら、くらしを守るために人々がどのような取組をしているのかについて疑問を持ち、学習問題を

	本時	<p>考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地震からわたしたちの暮らしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろうか。</p> </div> <p>○学習問題に関する予想をたてる。</p>
調べる	3 4 5 6 7 8	<p>○地域の防災倉庫について調べ、災害時にどのように運用されるのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花園公民館に見学に行き、防災備蓄品や災害時の避難所としての働きについて館長の話聞く。 <p>○地震から暮らしを守るために、地域ではどのようなものを備え、組織をしているのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝日ヶ丘自治体の自主防災組織の取組について自治会長から話を聞く。 ・花園小学校の周辺の自主防災組織や消防団の活動について調べる。 <p>○学校で行った避難訓練の経験をもとに、どうしてその経路で避難すべきか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物が倒れてきそうなところは避けて避難する。 ・どの道を通れば安全か考えないと、無事に避難できない。 <p>○教頭先生に地震が起きた時の学校の役割や備蓄品、避難経路を考えるとときに気を付けていることなどについて話を聞く。</p> <p>○家庭では地震に対してどのような備えをしているのか、家族に聞いて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちでは非常食をリュックに入れて用意している。 ・地震が来た時に集まる公園を決めている。 <p>○家庭で準備できることを千葉市の発行物（千葉市地震ハザードマップ・千葉市防災マップ花見川区版）を使って調べる。</p> <p>○市では、地震から市民を守るためにどのような備えをしているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市では地震に備えて防災計画を立てている。 <p>○市の防災課の人に話を聞き、地震に対しての市の備えや、地域との協力体制について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所は災害が起きたら、昼夜関係なく対処する。 ・道路や建物などの被害をいち早く把握し、必要なところの修復作業を行う準備をする。 ・それぞれの地域で避難所を開き、必要な物資などを割り振る。 <p>○千葉市や地域は避難所運営委員会を作り、協力して地震に備えていることを調べる。</p>
まとめる	9	<p>○これまでの学習で考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域には、人々の生命を守り、安全を確保するために、自主防災組織や消防団などが組織され活動している。 ・家庭でも地震の被害に備えて取り組めることが多くある。 ・千葉市では地震が起きた時に備えて防災計画を作っている。 ・地震が起きた時には、千葉市や地域が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっている。

		地震からくらしを守るために、地域では自主防災組織や消防団が作られ、地震の被害に備えており、市では防災計画を立て、パンフレットなどで防災を呼びかけている。地域や市はひなん所運営委員会を作り、協力して災害に備えている。
い か す	10 11	○これまでの学習をもとに、「子ども防災会議」を開き、防災について自分たちにできることはないか考える。 「家庭」…食料を家庭でも用意しておこう。 もしもの時に連絡を取り合う方法を家族で決めておこう。 防災袋を取りやすいところに用意しておこう。 「地域」…近所に住むお年寄りと一緒に逃げられるように普段から関わりをもつようにしよう。 自分たちに出来ることを知るために、地域の避難訓練に積極的に参加しよう。 「市」…学校や公民館以外にどのような避難場所があるのか調べておこう。

8 市教研社会科研究主題のための方針

研究主題：変貌する未来を切り拓く社会科学習
～ 手応えの発見につながる『深い学び』の探求 ～

《本年度の主題解明のための方策》

- ① 「深い学び」の基礎となる学習内容の工夫
- ② 社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫
- ③ 児童や授業者が「手応えの発見」につながったかを見取る評価方法の工夫

本単元では上記の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

① 「深い学び」の基礎となる学習内容の工夫

○社会的事象を身近にとらえるための教材と指導計画の工夫

児童が社会的事象について深く学んでいくためには、その事象を自分の問題としてとらえ、その問題解決のために自分たちが進んで学んでいきたいようになるような教材が重要となる。「地震」という一見、それほど生活に密接した問題として捉えがたい社会的事象を、児童が自分の問題として学習を進められるようにするために、本小単元では花園地区の地域の取組を教材として導入で扱う。そうすることで、いままで児童にとっては自分も被害にあうかもしれないという実感がなかった地震に対し、生活している花園地区でも多くの備えがあるということに気が付き、地震の備えが身近にあることを考えられるようになると考える。

③ 児童や授業者が「手応えの発見」につながったかを見取る評価方法の工夫

○児童の思考の流れが表れるノート

児童が社会的事象を自分の課題としてとらえ、学習を進めていくためには、単元の導入で児童の気付きや疑問を柱として学習問題を設定することが重要になると考える。そのために本時では、自分たちの疑問から学習問題につながる思考の流れが一目で表されるノートの指導を行う。児童の気付きと疑問、その疑問に対する予想を並べて書くことで、自分の疑問が学習問題へとつながっていることがノートに表される。また、たくさんの疑問を書き留めておくことで、これからの学習の見通しを立てることができ、調べ学習に入ってから初めの疑問に立ち返って問題解決学習を進めていくことができると考える。さらに、児童それぞれが考えたことをノートに書いておくことで、授業者は児童一人一人の思考を見取り、評価することができる。その後の学習でも、調べ学習の振り返りやまとめへの発展をノートに書くことで、児童の思考の深まりを見取ることができる。

9 本時の指導（2 / 1 1）

(1) 本時の目標

○地震が起きた時に誰がどのような働きをして暮らしを守っているのか資料から疑問を持ち、書き表すことができる。(思・判・表)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
7	<p>1 前時を振り返り、地震が起きた時の被害の大きさや、震災時の千葉市の様子、避難所での生活で困りそうなことについてみんなが感じたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家や道路が壊れていて避難するのも大変そうだった。 ・食べ物や水が足りなくて困っていそうだった。 ・避難所の人達の食べ物はどうしているのだろう。 ・狭くて壁がないから、生活するのが大変そう。 ・床が固いし、ベッドや布団が少ないから、夜寝る時もゆっくり眠れないのではないか。 ・子供やお年寄りがいるので、色々な人達のための物が必要になるのではないか。 	<p>○東日本大震災で、千葉県でも大きな被害があったことを振り返ることができるよう、ノートや掲示物を用いる。</p> <p>○前時で考えた避難生活での困難な点について確認し合い、自分では思いつかなかった考えに注目するよう助言する。</p> <p>○「食べ物や水など、必要なのに手に入らないものがたくさんありそうなこと」「多くの人々が集まる避難所での生活は、決して快適ではなさそうなこと」、「様々な人々が何日も不便な生活をしなければならないこと」などについて確認することで、地震が起きた時の生活の大変さや不便さを具体的に想像できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で使用した地震の被害の様子がわかる掲示物や避難所での生活の写真、ノート

7	<p>2 1で確認したことをもとに、知りたいことや疑問に思ったことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアリンクはだれが直したんだろう。 ・真っ暗でどうやって生活するのかな。 ・お腹がすいたらどうするのだろう。 	<p>○今まで見てきた資料から、疑問に思ったことや調べたいことを書く。その際、前時で学んだ「生活物資が手に入りづらいこと」「道路に被害があり、移動が困難なこと」にも意識が向くように助言する。</p> <p>○机間巡視をしながら、調べるのに適した疑問に丸をつけ、児童が疑問を考えるヒントとしていく。</p>	
1 4	<p>3 備蓄品の入っているダンボールを見て、知りたいことや疑問に思ったことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他にどんな備蓄品があるのか調べてみたい。 ・どこにこれらの備蓄品は置いてあるのだろう。 ・お店では商品が足りないし、道の多くは壊れていて運べないのに、どうやって運んだのだろう。 ・これだけいろいろな種類の品物を誰が用意してくれたのだろう。 ・避難してきた人それぞれが持ってきたものもあるのだろう。 	<p>○地震が起きた時にどのようなものがあると安心するか、どのようなものが必要になるのかを、備蓄品を見て捉えられるようにする。</p> <p>○何のためにこのような防災備蓄品があるのか考えるように問いかける。</p> <p>○なかなか自分の考えを書けない児童には、掲示している写真や前時に書いたノートから知りたいこと、疑問に思ったことを連想するように助言する。</p> <p>○地域の人々の工夫・努力にあてはまるものには称賛しながら丸を付けていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災備蓄品 <ul style="list-style-type: none"> ○非常食 ○マスク ○紙おむつ ・避難所の写真
1 0	<p>4 疑問に思ったことを発表する。</p> <p>5 写真と備蓄品から考えた疑問をまとめ、学習問題を作る。</p>	<p>○児童の発表を、調べる仲間わけの目安となるように意識的に分けて板書する。</p> <p>○全文を考えにくい場合は、中抜きにしてヒントにしていく。</p> <p>◆地震が起きた時に誰がどのような働きをして暮らしを守っているのか、疑問を持ち、書き表すこ</p>	

		とができる。 〈思・判・表〉	
	地震からわたしたちの暮らしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろうか。		
5	6 学校の備えとして、防災用倉庫があることを、実際の防災倉庫を見て確認する。 ・こんなところに倉庫があるなんて知らなかった。 ・中には何が入っているのだろう。 ・体育館に近いのは体育館がひな人所になるからだろう。	○防災倉庫を実際に見ることで、学校での備えに気が付き、次時からの調べ学習への意欲をもたせる。 ○防災倉庫を見て解決したという思いをもたせないために、中の備蓄品や他の場所にはないかなど、本時以降の学習につながる考えをもてるように助言する。	
2	7 次時に学習計画を立てることを確認する。	○次時の学習の予定を伝える。	・花園小学校防災用倉庫